

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 令和2年度

市町村名	久喜市					
提案事業名	合併10周年記念 郷土愛醸成・魅力発信事業					
事業期間	令和元年度 ~ 令和元年度					
成果指標	(成果を検証する指標) クッキーダンスコンテスト参加者数					
	(成果検証の具体的な方法) クッキーダンスコンテストに参加した人数を計測する。					
	(成果の目標値に対する実績)				達成度	A B C
	従前値 (年 月時点)		目標値 (令和2年3月時点)	50人	実績値 (令和2年3月時点)	20人
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)		稼働率 (%)	(目標) (実績)	
住民への公表状況 及び特記事項						

【事業効果の整理・原因分析】

令和元年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 合併10周年記念 LOVEくき醸成事業	○ ⊕ ×	くき親善大使や市民、市にゆかりのある人物など総勢210人が出演して市内各所や特産品を紹介しながら本市の合併10周年を盛大に祝う映像を作製し、合併10周年記念事業発表会や市公式動画チャンネルで公開した。 久喜ブランドクッキーの商品化へ向けて、高校生のアイデアを募り専門家からのアドバイスをいただいた。クッキーダンスサポーターは合併10周年記念イベントの中でお披露目を行う予定であったが、イベントが中止となり実施できなかった。 また、クッキーダンスコンテストを実施したが、目標としていた参加人数には届かなかった。
② 合併10周年記念 協働のまちづくり推進事業	◎ △ ×	令和2年1月11日(土)13時30分から、久喜総合文化会館大ホールにて、スポーツジャーナリストの増田明美氏を講師に招き「まちづくりにスポーツの力を～ランナーからみた協働のまちづくり～」と題した講演を実施したことで、協働や市民参加の意識を高めることができた。
③ 合併10周年記念 郷土愛醸成・魅力発信ツール作製事業	◎ △ ×	本市に縁のあるアニメ「らき☆すた」のキャラクターを用いた婚姻届、婚姻届受理証明書を作製し、令和2年3月23日から配布及び交付を開始した。さらに、久喜市オリジナルのパスポートカバーを作製し、令和元年9月1日から配布を開始した。 ペットボトル水の新しいラベルのデザイン選定を市内の全小中学生により実施した。また、デザインマンホール蓋のデザインを発表した。 このように、PRツールを複数作製することにより、市内外への魅力発信と郷土愛の醸成を推進することができた。

【成果検証の総括・改善策の検討】

<p>実施事業について 十分に成果が認められた点</p>	<p>講演会には873人が参加し、増田氏による本市の状況を踏まえた話やマラソンでの体験談などが参加者から多くの共感呼び、参加者アンケートでは98%の方から「講演会を聞いて、今後地域活動に参加したいと思った。」との回答を得ることができた。</p> <p>また、市民参加推進員登録の呼びかけをしたところ、15人の新規登録があるなど、市の更なる一体感の醸成を図るとともに、協働のまちづくりを推進することができた。</p> <p>本市に縁のあるアニメ「らき☆すた」のキャラクターを用いた婚姻届、婚姻届受理証明書を作製し、令和2年3月23日から配布及び交付を開始した。報道でも多く取り上げられ、婚姻届は令和2年5月27日までに109枚配布することができた。</p> <p>さらに、久喜市オリジナルのパスポートカバーを作製し、令和元年9月1日から配布を開始したところ、令和2年3月31日までに2,223部を配布することができた。</p> <p>デザインマンホール蓋については、デザインを発表したところ、複数の報道機関からの取材を受け、各紙面に掲載された。</p> <p>これらの取り組みによって、更なる郷土愛の醸成と市の魅力発信を図ることができた。</p>
<p>実施事業について 成果が不十分である点</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、合併10周年記念イベントが中止となったことで、イベント内で実施予定であったクッキーダンスサポーターの委嘱、久喜ブランドのクッキー商品化は実現できなかった。</p> <p>また、クッキーダンスコンテストを実施したが、目標としていた参加人数には届かなかった。</p>
<p>成果検証を踏まえた 今後の改善策</p>	<p>クッキーダンスコンテストは、より参加しやすく興味を引くイベントとなるよう、参加資格や参加方法、周知期間、周知方法の見直しを図る。</p> <p>また、「らき☆すた」に関する事業を行っている市商工会と連携するなど、シティプロモーション活動を推進することで、今後も郷土愛の醸成と魅力発信に努める。</p>

(記入上の注意)

【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合

$$\text{実績値} \geq (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合

$$(\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値} \leq \text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合

$$\text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値}$$

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(O・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果O」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない